

# Edulution

令和5年度千葉県教育庁教育振興部  
学習指導課ICT教育推進室発行  
GIGAスクール通信 vol.16 (R6.1.10)

教育 (Education) × 進化 (Evolution) の造語  
「ICT」を効果的に活用することで、  
教育の次なるステップを目指しましょう。

## 山武市立日向小学校におけるICTを活用した授業実践

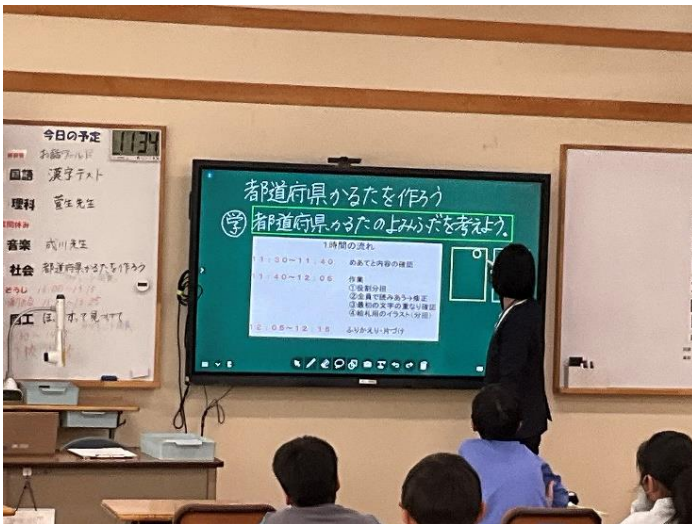
10月13日に、国のリーディングDXスクールの指定を受けている山武市立日向小学校で、「先生のためのICT教育ハイブリッドセミナー」が開催されました。日向小学校の取組を紹介します。



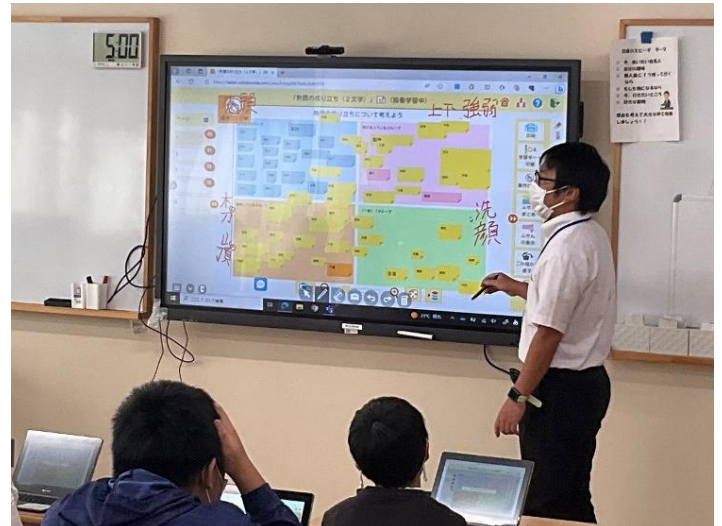
日向小ウェブサイトはこちら

### (1) 電子黒板の活用

山武市では統合、改築のあった学校を皮切りに、前面にあった黒板を廃止し、代わりに電子黒板を固定で設置し、その効果について研究を進めています。黒板のなくなった教室の前面は、電子黒板と脇のスペースにホワイトボードを整備し、併用して活用しています。



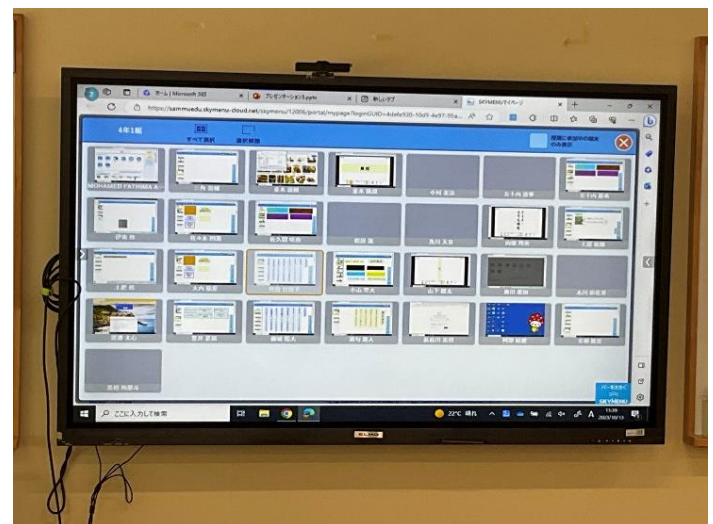
電子黒板の通常モードに、プリントの一部を取り込んで掲示しています。



デジタル付箋紙を活用して意見をまとめています。(コラボノート)



デジタルノートで作成すれば課題の配付提出も簡単です。(スカイメニュー)



児童の学習状況は教員の端末でも電子黒板でも確認できます。(スカイメニュー)



電子黒板が壁に直接設置されているため、設置用のスタンドが不要になり、教室が広く使えるようになっていきます。



壁掛け型のプロジェクター2台をコントロールして、パソコンの画面をかなり大きく投影できる教室があります。

## (2)リーディングDXスクール

### 先生のためのICT教育ハイブリッドセミナー

#### リーディングDXスクールとは

“リーディングDXスクール”は、GIGA端末の標準使用に含まれている汎用的なソフトウェアとクラウド環境を十全に活用した好事例を展開するために、全国の小中高等学校、約200校が指定されています。今回のハイブリッドセミナーでは、リーディングDXスクール事業推進委員会委員長の堀田龍也氏（東北大学大学院情報科学研究科 教授）に講演をいただき、山武地区の多くの先生方が講演を拝聴し、ICT教育に関する理解を深めました。

#### 当日の公開授業場면을スライドで振り返りながら堀田先生が語ったこと

- これからの学校教育に求められているのは、いつ、どんな能力を育てる授業をするのかということ念頭に置いた授業改善。
- 本日の授業では、段取りを見せていた。子供は見通しが無いと言われたことしかやらない。段取りを意識させることは大切。
- 学習する中身は変わる。時代が変わると重視されているものも変わる。つまり子供の時の知識は大人になったら学び直しが必要で、大人になった時に学び直すことができるか、自分で学べるようになっていくのか、**学び方の指導をしていかなければならない。**
- 全部教えてしまうことは、必ずしも優しさではない。指示の根拠を示し、ゴールまでの道のり、**到達点を指示することが大切。**
- 調べる際に、学び方のレパートリーを提示しているか、**学び方を自己選択**できるようにしていくことで、**一人で学べるようになる。**
- 今までは先生が全部教えてきた。**足場を外して、計画的に進められるかがカギ。**
- 教科書 = 答えではない。答えまでの**複数の道筋を差分から学ぶべき。**教科書を上手に使うべき。
- 今後はeラーニング、テストはCBTになっていく。紙でもデジタルでもかまわないが、**自分で学ぶ方法を身に付けて行かないと、先生がいないと学べなくなってしまう。**
- 端末を使うことに対する慣れが必要、時間がかかっても訓練し、アプリに親しむ色々やってみて慣れる、**試行錯誤と無駄な時間が必要**になる。
- 教材研究は大切だが、教材を全部説明するのではない。あくまでも、**教師の仕事は伴走者。**直接体験にとどまらず、**授業を複線化し、自分で創出、他の人を参考にして進められる場をつくるべき。**

